

迷、地方競馬の廃止が続くなど厳しい環境が続く中ではありますが、日高の基幹産業である軽種馬産業にとりまして、ホツカイドウ競馬の安定的な開催は不可欠であります。

農業担い手確保対策については、行政と手を携え、新規就農者の受け入れ、後継者対策事業に取り組みているところがあります。本年度より研修生2名が新規就農しており、その成果が現れ始めております。

更に、本年度より新ひだか町による静内ハウス団地が稼働し、研修生の受入体制が整うことから大きく期待を寄せているところがあります。研修生の積極的な受け入れと農業後継者の育成を図り、農業担い手の確保に取り組みますので、組合員皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

J A事業については、厳しい環境下ではありましたが、各事業とも計画以上の収益を確保することができ、経費節減と合わせ、6100万円ほどの税引き前当期剰余金を見込んでおりましたが、3JAでの合併を更に押し進めるために、債務者区分・担保評価の見直しを行った結果、2億6446万円の貸倒引当金の積み増しを計上したことにより、税引き前当期損失金は2億293万円となりました。このため内部留保金を取

り崩して補填した結果、自己資本比率は昨年度末より1.99%低下し8.69%となりました。

法令で定める4%あるいはJ Aバンクールの8%を確保しているものの、J A北海道中央会が定める自主ルールである10%以上の早期達成に向け、固定化債権の流動化と自己資本の造成に一層取り組んで参らなければなりません。

また、3JAによる合併については、今後とも関係JAとの検討協議を行い、更なる経営・財務の改善に取り組んで参りますので、組合員各位には特段のご理解をお願い申し上げます。」と挨拶がありました。



不動達也部長により「守り抜く決議(案)」が朗読され、満場一致の賛成を得ました。

議長には、有田英二氏、中田浩美氏が選任され、上程された7議案全てが原案通り可決となりました。

決議事項として提出された「TPP等国際貿易交渉から北海道を守り抜く決議(案)」については、不動達也JAしずない青年部部长が朗読し、出席者全員で参加反対決議を行いました。

総会終了後には、長きに渡って当組合の役員を務め、今回の役員改選をもって退任することとなった片岡禹雄前代表理事組合長より、退任の挨拶がありました。

片岡前組合長は、昭和53年度から平成4年度まで理事を15年間、そのうち、平成2年度からの3年間は、組合長代理を務め、平成5年度から平成25年度までの21年間は、代表理事組合長を務めて頂きました。片岡前組合長の在職期間は、バブルの崩壊があり、馬産地日高が最も大きく変化した時期とも重なり、組合長として、心配事やご苦労が数多くあったことと思います。

しかし、常に当地区農業と当組合をけん引する立場として、様々な場面でご尽力され、組合員の皆さんから多くの支持を集めていたことは、衆目の一致するところです。今まで本当にお疲れ様でした。



片岡前組合長から組合員の皆さんに向けて、退任の挨拶



花束の贈呈です。
長い間お疲れ様でした。

総会終了後行われました理事会において、左記の通り、代表理事組合長が選出されましたので、ご報告致します。

代表理事組合長
西村 和夫